

# 灯



覆われた蔵や住宅の解体作業がいよいよ本格化する。

豆田町にマンション？といううわさが日田市内でささやかれた。重要文化財草野家住宅の平成の大修理が始まって2年半。ここにきて順調に作業が進み巨大な覆屋が出現したのがうわさの原因。古い2階

瓦を1枚ずつ下ろし、壁土は袋に入れ、板には番号を付けて全て保管。専門家の検査を受けて再利用か廃棄かを決める。文化財修理は大変な時間を要するので工事期間は7年と長い。先般修理を請け負った建築業者や設計監理者、大工や



草野 義輔

## 平成の大修理

建ての住宅が大きいく覆われてしまったので確かに事情を知らない方からはマンションでも、と思われても仕方がない外観だ。

左官など専門職の方々との懇親会が開かれたが見渡すと日田の技術の粋が勢ぞろいした感で大変頼もしく思えた。

豆田町は明和9（1772）

重要文化財の修理では原則敷地に穴を掘れないので覆屋を造るための基礎が必要となる。1辺1・5メートルのコンクリートの立方体が敷地内に20個以上造られ、それに巨大な鉄骨が3階建てを超えるように組み込まれ覆屋となる。覆屋は2棟あり

年に町の大半が焼失する大火があり、その後瓦屋根に切り替わったと伝わるがそれ以来約200年ぶりの大修理。日田の技術を総結集して完成させ、何とか次世代へつなげていきたいと願っている。（昭和学園高校理事 長・日田市）